

豊田市福祉事業団事業報告

1 総括

令和4年度は、「信頼回復の年」と掲げ、虐待を二度と起こさない・起こさせないという固い決意のもと、事業団全職員に向けた再発防止研修や、施設ごとに虐待が起こり得る場面の洗い出しとその対応方法の検討及び支援力向上のための取組を実施しました。また、新たな相談窓口の設置など、職員が虐待の芽に気づいたときなどに相談しやすい仕組みをつくりました。令和5年度以降も引き続き虐待防止に取り組むとともに、令和3年度の事業団職員による利用者の方へ虐待行為発生とその背景を伝え続け、風化させることなく、利用者の方からの信用・信頼の回復に努めて参ります。

令和4年度取組のうち、子ども部門では、事業団が「地域支援」として行っている保育所等訪問支援事業や巡回療育相談等の重要性が増す中、今後もよりよい地域支援が継続できるようメンター制度による職員の人材育成に努めました。合わせて、障がいのあるお子さんの地域園への移行を支援するため、引き続き市の人材育成に協力し2人の保育士を研修生として受け入れました。

成人部門では、強度行動障がい者支援者養成研修の基礎研修に加え、新たに実践研修を障がい福祉課と共働で実施し、強度行動障がいのある方を支援する人材の育成に努めました。また、令和3年度に引き続き、親亡き後に備えた成年後見制度利用への取組や、外部の関係機関や事業団内の施設間連携による就労支援の強化などを実施しました。

新型コロナウイルス感染症については、職員及び利用者の方の感染や濃厚接触者となる事例が発生したものの、利用者の方にも協力をいただきクラスター化することなく各施設の運営が継続できました。

2 理事会・評議員会・監事会に関する事項

(1) 理事会の開催

■ 第1回理事会

日 時 令和4年6月3日

場 所 けやきワークス 2階会議室

議 題	議案第 1号	評議員選任・解任委員会委員の選任について
	議案第 2号	就業規則の一部改正について
	議案第 3号	職員給与規程の一部改正について
	議案第 4号	特定業務職員規程の一部改正について
	議案第 5号	限定職員雇用規程の一部改正について
	議案第 6号	個人情報保護規程の一部改正について
	議案第 7号	令和3年度事業報告及び収支決算について
	議案第 8号	令和4年度第2回評議員会（定時評議委員会）について
報 告	報告第 1号	理事長及び業務執行理事の執行状況について

■ 第2回理事会

日 時 令和4年6月23日

議 題 議案第 9号 副理事長の選任について
議案第10号 常務理事の選任について

■ 第3回理事会

日 時 令和4年12月8日

場 所 けやきワークス 2階会議室

議 題 議案第11号 令和4年度第3回評議員会について
議案第12号 令和4年度第1次補正予算について

報 告 報告第 2号 令和3年度決算 計算書類に対する注記の訂正について
報告第 3号 理事長及び業務執行理事の執行状況について

■ 第4回理事会

日 時 令和4年12月22日

議 題 議案第13号 職員給与規程の一部改正について

■ 第5回理事会

日 時 令和5年2月3日

議 題 議案第14号 令和4年度第1回評議員選任・解任委員会開催について
議案第15号 苦情解決第三者委員の選任について

■ 第6回理事会

日 時 令和5年3月17日

場 所 けやきワークス 2階会議室

議 題 議案第16号 就業規則の一部改正について
議案第17号 職員給与規程の一部改正について
議案第18号 特定業務職員規程の一部改正について
議案第19号 令和4年度第2次補正予算について
議案第20号 令和5年度事業計画について
議案第21号 令和5年度予算について
議案第22号 令和4年度第4回評議員会について
議案第23号 令和5年度第1回評議員会について

(2) 評議員会の開催

■ 第1回評議員会

日 時 令和4年4月1日

議 題 議案第 1号 監事の選任について

■ 第2回評議員会

日 時 令和4年6月23日

場 所 けやきワークス 2階会議室

議 題 議案第 2号 理事の選任について

議案第 3号 令和3年度収支決算について
報 告 報告第 1号 令和3年度事業報告について

■ 第3回評議員会

日 時 令和4年12月22日
場 所 けやきワークス 2階会議室
議 題 議案第 4号 令和4年度第1次補正予算について
報 告 報告第 2号 令和3年度決算 計算書類に対する注記の訂正について

■ 第4回評議員会

日 時 令和5年3月27日
場 所 こども発達センター 大会議室
議 題 議案第 5号 令和4年度第2次補正予算について
議案第 6号 令和5年度事業計画について
議案第 7号 令和5年度予算について

(3) 監事会

日 時 令和4年5月26日
場 所 こども発達センター 大会議室
議 題 令和3年度事業報告及び収支決算について

3 受託施設事業報告

〔1〕豊田市こども発達センター

令和4年度もコロナ禍が継続する中、特に第8波を迎えた後期は、利用者の方や職員から感染や濃厚接触の報告が頻繁にあり、安全・安心な支援に工夫の必要な1年となりました。保健所の濃厚接触者の特定や自宅待機期間の指定がない状況で、個々にあわせて対応を判断し、利用者の方々に協力を得て、センター全体で情報共有し、感染拡大防止を図りました。その一方で、施設支援のニーズ拡大をみすえたスキルアップを目的とする新しい人材育成の試みや、出生前診断に関するルール変更への準備など、新たな取組も積極的に開始しました。一層の就園の早期化・多様化に対応するための地域園や福祉事業所への支援、進路相談や移行支援を通じた家族支援の強化を引き続き図りました。

【重点目標】

- ① 障がい児や発達に心配のある子どもたちの地域園などへの移行の多様化・早期化を踏まえて関連機関との連携を深め、出生前から就学までの「発達支援」「家族支援」とともに「地域支援」を強化します。
- ② 電子カルテの本格的始動後の安定した運用や必要に応じた修正を行い、医療支援の充実と効率化を進めます。
- ③ 新型コロナウイルス感染症の状況の変化に合わせて、安心・安全な療育・診療・相談体制を維持できるように、センター全体での柔軟な対応、対策を行います。

【重点目標達成状況】

- ① コロナ禍で抑制していた訪問支援や集合研修の多くを二週にあわせて再開しました。非侵襲性出生前遺伝学的検査に関連する検討チームを立ち上げ、チームを中心とした研修や関係機関との情報交換、検査を受けた保護者対象のアンケート調査などを実施しました。
- ② 電子カルテの運用は安定しており、院外処方への移行が円滑に進むなど効率的な診療につなげることができました。
- ③ 第 8 波の到来以降、感染者が利用者や職員で増加が見られましたが、クラスター化することなく、センターの活動が継続できました。センター内の感染状況をセンター全体で週 1 回確認、共有し、各施設の事情や流行傾向にあわせた拡大予防策を検討、実施しました。

(1) のぞみ診療所

障がいのあるお子さんを対象とする専門医療機関として、医療支援（診断・検査・各種療法など）を通して、発達の促進を図りました。地域の医療・教育・保育・福祉機関との連携・協力体制を推進し、更なる地域支援の充実に努めました。

【重点目標】

- ① 関係機関向けの職員研修や事例検討のような地域への支援と合わせて、センター他部署と協力し、センター内の地域支援に関わる職員の知識、技能の一層の向上に取り組みます。
- ② 電子カルテの導入に合わせて、診療業務全体を見直し効率化を図るとともに、利用者への支援の充実に努めます。
- ③ 状況に合わせた感染症対策を行うとともに、感染者発生時の行動を再確認し、適切な対応により業務への影響を最小限にとどめ、ご利用いただく方への支援を継続していきます。

【重点目標達成状況】

- ① 地域支援について診療所職員が計画立案から参加・協力し、必要な知識を持つ職員がメンターや講師を担当しました。外部向けの研修については、新型コロナウイルスが感染拡大する以前と同様の回数で訪問・研修の開催ができました。
- ② 電子カルテを利用して事業実績を速やかに算出できるよう工夫しました。職員のスケジュールがわかりやすくなり、利用者の問い合わせによりスムーズに回答できました。
- ③ ハイリスクな子どもたちが利用している状況を踏まえ、厚生労働省や豊田市からの公的な情報を基に、診療所として適切な感染予防策を講じました。

◇科別診療状況

診療科目	延べ人数	前年度比	初診	前年度比	個別療法	延べ人数	前年度比
児童精神科	6,992	100.5%	325	79.1%	理学療法	2,800	96.2%
小児神経科	3,545	108.7%	285	113.1%	作業療法	3,336	106.9%
小児整形外科	2,136	101.8%	62	70.5%	言語聴覚療法	3,105	81.3%
耳鼻咽喉科	334	86.3%	79	85.9%	心理療法・心理検査	1,637	96.3%
泌尿器科	51	68.9%	4	40.0%	個別療法等合計	10,878	94.2%
小児歯科	2,253	86.4%	92	109.5%	検査件数	2,124	100.0%
診療科合計	15,311	99.5%	847	90.4%	処方件数	6,867	88.6%
					外来栄養相談支援	76	57.1%

◇診療所受診者（実人数）

区 分	令和4年度		前年度比	
	初 診	再 診	初 診	再 診
医 科	676	3,300	99.3%	106.0%
歯 科	92	497	109.5%	115.0%

（2）地域療育相談室

相談支援グループは、こども発達センターの総合窓口として、お子さんの発達などご家族の育児に関する各種相談支援に努めました。また、西三河北部福祉圏域のコーディネート機関として豊田市心身障がい児早期療育推進委員会の運営や、障がい児等療育支援事業を実施し、地域のこども園・幼稚園、小・中学校のほか、福祉事業所への支援の充実など一層の地域支援に努めました。

【重点目標】

- ① 染色体異常など胎生期、周産期に発見される障がいに関する知識を深め、職員のスキル向上を図ります。
- ② 子どもや保護者のニーズの多様化に伴い、訪問看護ステーションなど連携する機関の拡充を図ります。
- ③ 発達に支援の必要な子どもたちの増加に伴い、地域園を支援する体制の見直しを行います。
- ④ 災害時及び感染症拡大時など非常事態における地域園、小中学校等への訪問基準を定めたマニュアルを作成します。

【重点目標達成状況】

- ① 染色体異常と非侵襲性出生前遺伝学的検査に関する職員研修を3回開催しました。相談業務で求められる家族からのニーズを職員で共有しました。
- ② 県や市の担当者と協議をし、受け入れ可能な事業所の不足など子どもに関する課題を共有しました。訪問看護ステーションへのアンケート調査等を実施し、発達センターに求められている役割について確認しました。
- ③ 保育課担当者と協議を行い、統合保育研修の内容を保育士のニーズに合わせて変更しました。地域園が希望する時期に巡回療育相談が実施できるように体制の見直しを図りました。

④ 感染症拡大時の地域園や小中学校等の訪問基準を策定しました。

◇相談件数

延べ相談件数	月平均	前年度比
5,954 件	496 件	101.0%

■ 障がい児等療育支援事業

障がいのあるお子さんの地域における生活と発達を支えるため、療育支援、相談等に努めました。

事業名	延べ人数等	前年度比	備 考
訪問療育指導事業	36 回	97.3%	訪問相談等
外来療育支援事業（わくわく）	207 人	81.1%	登録者 55 人
施設支援一般指導事業	1,022 回	151.3%	講演会・事例検討会等
栄養相談	212 人	95.1%	

■ 巡回療育相談

地域の障がいのあるお子さん、療育関係者への支援及び啓発研修を実施しました。

◇事例検討

地 域	対象施設	園数(延べ)	回 数	対象児
豊田市	公私立こども園、私立幼稚園	159 園	368 回	590 人
みよし市	公私立保育園、私立幼稚園	11 園	11 回	11 人
合 計（前年度比）		170 園 (100.0%)	379 回 (113.5%)	601 人 (105.8%)

◇地域支援事業派遣スタッフ（延べ人数）

（単位：人・％）

	児童精神科医	小児整形外科医	小児神経科医	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	臨床心理士	支援員	相談員	保健師・看護師	歯科衛生士	管理栄養士	スタッフ合計
訪問療育	0	0	0	0	0	0	18	0	21	0	0	0	39
前期巡回相談	0	0	0	2	12	24	112	28	89	6	0	0	273
後期巡回相談	0	0	0	1	13	28	107	38	101	10	0	0	298
随時巡回相談	0	0	0	1	2	0	8	4	13	1	0	0	29
園訪問	0	0	0	3	26	2	31	36	86	0	0	0	184
公開保育	0	0	0	1	2	2	3	5	0	0	0	0	13
研修講師	0	0	1	1	8	11	26	0	3	1	1	3	55
健診事後フォロー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	20
教職員向けケース支援	0	0	0	22	37	25	30	0	58	0	0	0	172
支援会議	1	0	0	0	0	1	2	0	11	1	0	0	16
みよし市療育研修	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

	児童精神科医	小児整形外科医	小児神経科医	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	臨床心理士	支援員	相談員	保健師・看護師	歯科衛生士	管理栄養士	スタッフ合計
みよし市療育支援	0	0	0	0	0	0	1	0	5	0	0	0	6
スタッフ合計	1	0	1	31	100	93	339	111	387	39	1	3	1,106
前年度比(%)	20.0	-	25.0	114.8	144.9	88.6	117.3	156.3	156.3	60.0	100.0	300.0	118.3

■ 障がい児相談支援事業所 オアシス

障がいのあるお子さん及びその保護者の方に対し、計画相談支援及び障がい児相談支援を適切かつ円滑に実施しました。

利用計画案作成件数	本計画作成件数	モニタリング実施件数	家庭訪問件数
150 件	195 件	97 件	15 件

コロナウイルス感染防止対策のため、利用者の方の意向に沿って家庭訪問を控えました。

(3) そよかぜ（保育所等訪問支援事業）

医療的ケア児、外国籍の難聴児、重複障がいの難聴児等に対し、関係機関と連携し支援を行いました。

施設名	契約人数	利用児延べ総人数
なのはな	15 人	50 人
たんぽぽ	8 人	25 人
その他	2 人	7 人

(4) あおぞら

障がいの有無にかかわらず発達の支援を必要とする乳幼児の親子通園療育を週 1～2 回実施し、全体的発達を支援するとともに保護者の方への子育て支援を行いました。

【重点目標】

- ① おひさまとともに、アンケートから得られた保護者のニーズを踏まえ、活動や保護者勉強会の見直しを行います。また、時代の流れと共に変化してきた 1 歳児の進路支援や 3 歳児の療育内容について検討し、職員で共通理解を図ります。
- ② 新型コロナウイルス感染症を含む業務継続計画（BCP）を整理し、非常時における療育の受け入れマニュアルを作成します。

【重点目標達成状況】

- ① グループの参加回数や勉強会の合同開催など、保護者のニーズに合わせて対応し参加の機会を増やしました。また、1 歳児は進路の流れを表にして進路支援の充実を図り、3 歳児は地域支援での情報を参考に療育の見直しを図りました。
- ② 感染症等で職員が不足した場合の業務の在り方を検討し、対応をまとめました。

(5) おひさま

障がいの有無にかかわらず、発達の支援を必要とする乳幼児の親子通園療育を週1～2回実施し、全体的発達を支援するとともに保護者の方への子育て支援を行いました。

相談部門においては、南部地区在住の就学前までのお子さんの発達やご家族の育児に関する相談支援に努め、こども園等への訪問相談を行い地域支援の充実を図りました。

【重点目標】

- ① ひまわりなどの通園施設へ入園せずに就園する子ども、発達支援が明らかになる前から就園している子ども、おひさまと園を並行利用している子どもなどの増加に対し、地域園や子育て支援センターなどの関係機関との連携を更に深め、移行児支援や相談支援の充実を図ります。
- ② あおぞらとともに、アンケートから得られた保護者のニーズを踏まえ、活動や保護者勉強会の見直しを行います。また、時代の流れと共に変化してきた1歳児の進路支援や3歳児の療育内容について検討し、職員で共通理解を図ります。
- ③ 新型コロナウイルス感染症を含む業務継続計画（BCP）を整理し、非常時における地域園等への訪問基準と療育の受け入れマニュアルを作成します。

【重点目標達成状況】

- ① 並行通園児など地域園在籍児における支援を実施し、園や家族との連携を図りました。また、相談員による訪問相談や新たに講座を実施し、子育て支援センターとの連携を深めました。
- ② グループの参加回数や勉強会の合同開催など、保護者のニーズに合わせて対応し参加の機会を増やしました。また、1歳児は進路の流れを表にして進路支援の充実を図り、3歳児は地域支援での情報を参考に療育の見直しを図りました。
- ③ 外来療育、相談部門において人員不足時の業務の在り方をまとめました。感染症拡大時の地域支援について訪問基準に沿って対応できるようなマップを作成しました。

◇あおぞら・おひさま利用児

	登録人数	前年度比	延べ 利用児数累計	月平均	前年度比
あおぞら	519 人	101.6%	12,284 人	1,024 人	122.6%
おひさま	275 人	96.5%	7,413 人	618 人	108.9%
合 計	794 人	99.1%		1,642 人	

◇あおぞら・おひさま利用児の年齢

施設／年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児
あおぞら	0 人	239 人	235 人	45 人	0 人
おひさま	2 人	84 人	154 人	35 人	0 人

注：年度末の状況

◇あおぞら・おひさま利用児の性別

施設／性別	男	女	合 計
あおぞら	347 人	172 人	519 人
おひさま	179 人	96 人	275 人

注：年度末の状況

◇あおぞら・おひさまの進路の状況

(単位:人)

施設／進路	こども園	私立幼稚園	ひまわり	なのはな	たんぼぼ	託児所	家 庭	転 居	保健師へ依頼 (音信不通)	継 続	
										あおぞら	おひさま
あおぞら	117	117	18	13	0	14	27	14	0	192	7
おひさま	107	59	4	6	0	7	3	12	1	2	74

◇おひさま相談件数

延べ相談件数	月平均	前年度比
1,151 件	95.9 件	97.4%

(6) なのはな (定員 30 人)

◆なのはなグループ

超早期 (0 歳) から就学前までの難聴児に対し、個々の子どもの聴力や発達に合わせた療育を行いました。

【重点目標】

- ① あいち小児保健医療総合センターや名古屋大学病院など県内の医療機関との連携により、人工内耳調整など管理技術の習得に努めます。
- ② 地域園に通っている、外国籍や重複障がいの難聴児への支援を強化するため保育所等訪問支援を充実します。
- ③ 日々変化する新型コロナウイルス感染症発生状況に合わせた感染症対策を行います。

【重点目標達成状況】

- ① 名古屋大学病院と人工内耳装用児 2 名の情報交換を行い、今後も引き続き連携を行っていくことを確認しました。マッピングのデータの見方や保護者用アプリの操作方法について学びました。
- ② 外国籍の難聴児 1 名に 4 回、重複障がいの難聴児 3 名に 13 回の保育所等訪問支援を行いました。
- ③ 新型コロナウイルス感染状況の確認事項に検査日、発症日、感染可能期間等を加えて作成し、センター内への報告が速やかにできるようになりました。

◆ちょうちょ・とんぼグループ

一人ひとりのお子さんの発達段階と障がいの特性を考慮し、保護者の方との愛着関係を基盤に全体的発達を支える支援を行いました。また、保護者の方にお子さんの発達段階に合わせた関わり方をお伝えし、着実に親子関係が育つよう支援しました。

【重点目標】

- ① 地域へ移行した子どもの状況を園へ出向いて確認し、園と情報共有しながら移行児支援を行います。
- ② 地域園移行後の姿を見据えた移行児支援を行います。
- ③ 日々変化する新型コロナウイルス感染症発生状況に合わせた感染症対策を確実にを行います。

【重点目標達成状況】

- ① 地域へ移行した 7 名の子どもの園へ訪問をしました。
円滑に移行が行えるよう、子どもに合わせた支援方法や発達状況を園と情報共有を行いました。
- ② 保護者の方が子どもの特性や発達に合った移行先を選べるよう、こども園等の情報を調べ丁寧に保護者へ伝えました。
- ③ 新型コロナウイルス感染状況の確認事項に検査日、発症日、感染可能期間等を加えて作成し、センター内への報告が速やかにできるようになりました。
保護者の休憩室にアクリル板を設置しました。

◇なのはなグループ利用児

契約利用児数	提供日数	総利用日数(a)	年間の 総契約日数(b)	利用率(a/b)
17 人	242 日	481 日	574 日	83.8%

◇ちょうちょ・とんぼグループ利用児

契約利用児数	提供日数	総利用日数(a)	年間の 総契約日数(b)	利用率(a/b)
20 人	242 日	2,537 日	3,250 日	78.1%

注：「契約利用児数」は、施設と利用契約を締結した利用児数

「提供日数」は、施設の開設日数

「総利用日数」は、利用児が通園した利用日の合計

◇利用児の年齢

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児
なのはなグループ	2 人	1 人	4 人	4 人	2 人	4 人
ちょうちょ・とんぼグループ	0 人	0 人	0 人	20 人	0 人	0 人

◇利用児の性別

	男	女	合 計
なのはなグループ	8 人	9 人	17 人
ちょうちょ・とんぼグループ	16 人	4 人	20 人

◇退園後の状況

	こども園	ひまわり	小学校	特別支援学校	継 続
なのはなグループ	0 人	0 人	4 人	1 人	14 人
ちょうちょ・とんぼグループ	12 人	8 人	0 人	0 人	0 人

(7) たんぽぽ（定員 40 人）

1 歳から就学前までの運動発達に不自由さのあるお子さんに対し、一人ひとりの発達段階と心身の特性を考慮し、身体機能をはじめとする全体機能の発達を促して日常生活動作が習得できるよう支援しました。また、日々育児にあたる保護者の方に対し、保護者の役割とお子さんとの適切なかかわりの基本が習得できるように支援しました。

【重点目標】

- ① 経管栄養で育った子どもが、入園後に給食の注入や経口摂取を安全に取り組めるように、のぞみ診療所や並行通園事業所と連携をして支援します。
- ② 重度の障がいがあったり、医療的ケアを必要としている並行通園児が、地域園で安心・安全に過ごせるよう、豊田市重症児保育事業と連携をしながら保育所等訪問支援を行います。
- ③ 災害時に吸引器や人工呼吸器など医療機器の電源が、備蓄しているポータブル電源や公用車から安全に供給できるかを管理担当やのぞみ診療所と連携して確認します。

【重点目標達成状況】

- ① 多職種で連携をとりながら、安全に食事をすすめることができました。また、次年度入園する対象児の摂食方法や食形態の決定、姿勢を考慮した椅子の加工を始めました。
- ② 並行通園児が通う 6 園に対して安心して保育が行えるように訪問支援や電話で食事や子どもの発達などについて相談を受けました。11 月下旬には、関係機関と令和 5 年度に対象となる並行通園児にどのような支援が必要となるか話し合いました。また、並行通園児が通う地域園から保育士 3 名の療育実習を 9 日間受け入れました。
- ③ 医療機器メーカー 2 社・診療所医師とともに施設備品使用時の安全性を検証しました。備品であるポータブル電源・ガス発電機・ハイブリッド車のいずれも使用できることが分かり、注意点を保護者に広報しました。

◇利用児

契約利用児数	提供日数	総利用日数(a)	年間の 総契約日数(b)	利用率(a/b)
40 人	242 日	3,435 日	5,245 日	65.5%

注：各項目については、「なのはな」の脚注に同じ。

◇利用児の年齢

年 齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児
人 数	0 人	6 人	11 人	8 人	8 人	7 人

◇利用児の性別

性 別	男	女	合 計
人 数	20 人	20 人	40 人

◇退園後の状況

進路	こども園 保育園	私立 幼稚園	ひまわり	なのはな	地域 小学校	豊田特別 支援学校	瀬戸つば き特別 支援学校	転居	死亡	継続
人数	4 人	0 人	1 人	1 人	0 人	6 人	1 人	0 人	0 人	27 人

(8) ひまわり (定員 50 人)

3 歳から就学前までの知的発達がゆっくりなお子さんに対し、一人ひとりのお子さんの発達段階と障がい特性を考慮して、情緒の安定を図りつつ発達を支援しました。また、日々育児にあたる保護者の方に対し、保護者の役割とお子さんとの関わりの基本を習得し、適切な子育てができるよう支援しました。

【重点目標】

- ① 新型コロナウイルス感染症等に対応した環境や療育内容を整備し、安心して安全な発達支援と保護者支援を充実させます。また、家庭状況に合わせて家族支援を見直し、親子通園の方法や親子参加行事の内容を再検討します。
- ② こども園等への移行児支援について、職員の支援力向上を目指します。再調理の方法、子どものからだに合わせた椅子の加工方法、対象児の障がい特性に関する知識を習得し、移行児訪問支援に活用します。
- ③ 新型コロナウイルス感染症対策を含む業務継続計画（BCP）を整理し、職員非常時訓練を実施します。

【重点目標達成状況】

- ① こども園や特別支援学校の手洗い・手拭きについての情報を収集し予防活動に活用しました。歯みがきと手洗いのリーフレットを作成し保護者に示しました。親子参加行事は、複数日の開催にするなどして密集を避けて実施しました。
- ② 再調理研修、椅子の作り方勉強会を実施し延べ 44 名の職員が体験研修をしました。移行児支援として 22 回の園訪問、275 件の電話相談等を行いました。
- ③ 園児引き渡し訓練とひまわり職員による職員非常時机上訓練を実施しました。内容を施設長会・センター連絡会議で報告し、業務継続のためのタイムランを作成しました。

◇利用児

契約利用児数	提供日数	総利用日数(a)	年間の 総契約日数(b)	利用率(a/b)
50 人	242 日	8,501 日	9,629 日	88.3%

注：各項目については、「なのはな」の脚注に同じ。

◇利用児の年齢

年 齢	3 歳児	4 歳児	5 歳児
人 数	16 人	23 人	11 人

◇利用児の性別

性 別	男	女	合 計
人 数	38 人	12 人	50 人

◇退園後の状況

進 路	地域園	小学校特別 支援学級	三好特別 支援学校	瀬戸つばき 特別支援学校	豊田特別 支援学校	転出	継続
人 数	22 人	4 人	7 人	0 人	0 人	1 人	16 人

(9) その他

■ 豊田市こども発達センター・公開セミナー

障がいに関する啓発を目的として、市民・支援者を対象に年 1 回の公開セミナーを開催しています。令和 4 年度のテーマは「みんなで暮らす地域社会～重い障がいのある子どもの保育を支える～」とし、豊田加茂医師会館（西山町）で開催しました。

158 名（会場 40 名、オンデマンド 118 名）の参加がありました。

■ こどもひろば利用者の状況

利用日数	延べ利用者数	1 日平均	月平均	前年度比
213 日	884 人	4.2 人	73.7 人	72.5%

注：前年度比は延べ利用者数で算出

■ こどもひろばボランティア参加者の状況

活動日数	延べ参加人数	1 日平均	月平均	前年度比
213 日	829 人	3.9 人	69.1 人	80.4%

注：前年度比は延べ参加人数で算出

■ 視察者の状況

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策を継続するなか、社会状況をみながら外部機関からの視察の受入れを慎重に検討しました。梅坪台地区民生委員や調布市議会議員等の視察を受け入れました。

件 数	延べ人数	1 団体平均	月平均
9 件	54 人	6 人	7.7 人

■ 講師派遣

関係機関からの依頼等により、各種研修会で講演を行いました。

派遣職種	対象者	講演内容等	回 数
医 師	当事者家族、医療関係者、教員、学生	幼児期の自閉症基礎講座、わかりやすい ADHD、乳幼児健診、てんかんについてなど	5 回
理学療法士、作業療法士 言語聴覚士、臨床心理士等	保育士、幼稚園教諭 保健師、学生、教師 保護者等	乳幼児健診での発達の捉え方、「こだわり」への対応、吃音についてなど	41 回
合 計 (前年度比)			46 回 (69.5%)

■ 研究発表（学会発表）

第63回日本児童青年精神医学会において1件の研究発表を行いました。

〔2〕障がい者総合支援センター

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策を常に取りながらの事業運営でしたが、総合支援センター各施設で必要な情報共有と連携に努め、各重点目標を達成することができました。

全国的に新規陽性者数が急増した7月から8月、11月から1月には、施設内感染もあり、感染した利用者の方の体調、自宅待機中の方の生活やご家族の介護負担が心配される事態もありました。ご家族や関係機関と連絡を取り合いながら、ときにはオンラインで活動に参加してもらうなど、少しでも気分転換できるよう支援しました。

また、次期推進計画策定に向け、主任級以下の有志職員でプロジェクトチームを立ち上げ、現状と課題の整理を行い、今後優先的に取り組むべき課題を明らかにしました。

【重点目標】

- ① けやきワークスを利用される方の就職支援と定着支援について、けやきワークスと就労生活支援センターの役割分担を明確にして、生活及び就労のフォロー体制を充実させます。
- ② 豊田市と共働し強度行動障がいのある方の地域支援を充実させます。令和4年度は、豊田市版支援者養成研修（基礎研修と実践研修）を実施します。
- ③ 重度の障がいがあり医療的ケアの必要な方が、高等部卒業後に利用したい生活介護事業所を選択できるよう、現状と課題を関係機関と共有します。令和4年度は、10年後までの年度ごとの対象者を把握します。
- ④ 感染症に対応した業務継続計画（BCP）を策定します。

【重点目標達成状況】

- ① 9月30日と3月29日にけやきワークスと就労生活支援センターの施設長、主任、担当で連携会議を開催しました。けやきワークスを利用して就職された方の現状や支援内容を話し合い、施設間の相互理解と役割の明確化を図りました。
- ② 基礎研修を7月28日・29日に開催し、13名に修了証を発行しました。実践研修を12月8日・9日に開催し、14名に修了証を発行しました。
- ③ 豊田特別支援学校を訪問し、小学部から高等部まで授業の様子を見学しながら、高等部進路指導主事から対象児童生徒についての聴き取りを実施しました。向う10年間の対象者は27名、小学6年生を除き各学年に1～7名在籍していることがわかりました。
- ④ 厚生労働省の様式を用いた業務継続計画（BCP）を作成しました。

（1）就労・生活支援センター

従来の支援事業に加え、平成22年度から国・県の豊田市及びみよし市の西三河北部福祉圏域における「障害者就業・生活支援センター事業」を受託し、障がいのある方の雇用支援と就労支援事業を拡充しています。また、障がいのある方が地域で自立した生活を送れるように、関係機関と連携して相談や助言などの必要な支援を行いました。

【重点目標】

- ① 労働機関、医療機関、福祉機関、教育機関など関係諸機関との連携を進め、就労へ向けた一層の基盤の整備を図ります。
- ② 働く中での困りごとの対処などの当事者向け勉強会や、社員向け企業内研修を実施し、就労定着や障がい者雇用への理解を促進します。

【重点目標達成状況】

- ① 西三河北部福祉圏域の就労移行支援 13 事業所の事業内容の報告会や、「とよたとみよしの就労支援力を上げよう！」をテーマにした研修会を開催し、就労移行支援事業所間の連携を深めました。また、労働機関との連携では、9 月 2 日にハローワーク主催の「障がい者サポートフェア」に参加し、本センターの紹介を行いました。
- ② 豊田市内 4 企業に企業内研修「障がいのある方の定着支援」を合計 9 回実施しました。また、「障がい者雇用セミナー」をみよし市で 2 回開催し、障がいのある方の雇用を継続する工夫や、高次脳機能障がいのある方の雇用継続についての講演会、及び企業の障害者雇用の現状と課題について意見交換をしました。当事者の方向けには、「就労・生活支援センターの役割」「身だしなみ」等の勉強会を 4 回開催しました。

◇関係機関協働事業

事業名	事業内容
企業内研修	「障がいのある方の定着支援」「知的障がい、発達障がいについて」等 対象：障がい者雇用による社員の配属部署及び管理職 9 回開催
障がい者雇用 支援セミナー	① 「複数名雇用を実現するコツ」(web 開催)トヨタグループ株式会社 下山分室 室長 藤田弘美氏 講演及び支援機関紹介 ■9 月 21 日 参加企業 19 社 ② 「脳卒中・脳挫傷による後遺症の方々の雇用継続について」 名古屋市総合リハビリテーションセンター 就労支援課 磯部 萌氏 講演及び関係機関との意見交換 ■1 月 31 日 参加企業 3 社 (両日ともみよしはたらく相談センター、豊田公共職業安定所との共催)

◇人材育成研修事業

事業名	事業内容
発達障がい者支援者研修	「大人の発達障がいについて」就労・生活支援センター職員 講演及びグループワーク ■11 月 16 日 豊田市福祉部及び人事部職員ほか関係機関職員 5 名参加 (豊田市障がい福祉課との共催)
就労移行支援事業所職員研修	「効果的な就労支援を考える」愛知障害者職業センター 主幹障がい者職業カウンセラー 照山 恵氏 講演及び演習(グループディスカッション) ■1 月 17 日 豊田市及びみよし市就労移行支援事業所中堅職員 10 名参加

◇総合相談事業

事業名	実績
総合相談窓口	相談件数 4,243 件 新規登録者数 146 人 (身体 17 人、知的 72 人、精神 45 人、その他 12 人)

◇就労支援事業

事業名	実 績
職場開拓	89 社（うち新規 14 社）、訪問 367 件
就職者	59 人（身体 7 人、知的 42 人、精神 10 人、その他 0 人） 豊田市 51 人、みよし市 3 人、圏域外 5 人
企業訪問等による 職場定着支援	企業訪問 138 社、対象者 213 名、訪問 501 件

（2）けやきワークス（定員 50 人）

おおむね 18 歳以上で身体障がい、知的障がい、発達障がいのある方を対象に支援をしました。就労移行支援では、一人ひとりに合わせたプログラムにより、一般就労に向けたコミュニケーションや言葉遣い、軽作業及び接客等についての知識・技術の習得を支援しました。就労継続支援では、充実した社会生活が送れるよう一人ひとりに合わせた就労や生産活動の機会を提供しました。

【重点目標】

- ① より魅力のある商品を開発したり、効果のある情報発信や営業活動を確実に行うことで、売り上げを伸ばし、工賃を向上させます。
- ② 高次脳機能障がいの方や若年性認知症の方の支援を進めるために、医療や福祉、行政といった関係機関との連携を図り、情報交換やネットワーク作りを行います。
- ③ 加齢に伴う機能低下や高齢となっている利用者の方に必要な支援及び福祉サービスを検討し、職員の支援力の向上や利用者の方の地域生活の維持・充実を図ります。

【重点目標達成状況】

- ① 個人向けのごみ袋パッケージやクスノキを使った防虫剤・廃油石鹸を新たに開発しました。また、TasainaArt（たさいなあーと）の作品を活かしたクリアファイルを開発し販売しました。そして、近隣の医療機関（1 か所）にゼルコバの宣伝ポスターを貼っていただき、新規顧客を増やしました。

※TasainaArt（たさいな あーと）

障がいのある方の絵画作品を、色とりどりで美しい「多彩」と、いろいろな才能が溢れている「多才」の両方の意味で表現した、けやきワークスの造語

- ② 市内全 29 か所の地域包括支援センターに、けやきワークスでの若年性認知症の方への支援方針について広報し、2 つの地域包括支援センターからの見学を受け入れました。認知症の方の社会参加支援交流会に参加して、けやきワークスでの取り組み経過や今後の方針について発表しました。また、地元の地域包括支援センター主催の意見交換会に初めて参加し、地域課題について情報共有しました。パソコン教室受講支援や企業実習の継続により、パソコンのスキルを高めたり、就職するための課題や配慮事項に対する支援をすることで、高次脳機能障がいの方 2 名が就職できました。

- ③ 作業で使用する自助具を見直し、より使いやすく便利な自助具を作りました。

同じように障がいのある弟と 2 人で暮らすこととなった利用者の方に対して、在宅生活の維持ができるよう、郵便物の確認や対応、行政手続き、ヘルパー利用等の各種生活支援を行いました。

◇利用者

事業	契約利用者数	提供日数	総利用日数(a)	年間の 総契約日数(b)	利用率(a/b)
就労移行支援事業	8人	240日	1,026日	1,181日	86.9%
就労継続支援B型事業	34人	240日	7,213日	7,959日	90.6%

注：「契約利用者数」は、施設と利用契約を締結した利用者数

「提供日数」は、施設の開設日数

「延べ利用日数」は、利用者が通所した利用日の合計

◇利用者の年齢

年齢	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳以上	平均年齢
就労移行支援事業	3人	2人	2人	0人	1人	27.8歳
就労継続支援B型事業	0人	6人	8人	12人	8人	41.1歳

注：「年齢」は、利用中止時又は令和5年3月31日現在

◇利用者の性別

性別	男	女	合計
就労移行支援事業	5人	3人	8人
就労継続支援B型事業	21人	13人	34人

◇障がい者手帳保持状況

手帳の種類	療育手帳			身体障がい者手帳				精神障がい者 保健福祉手帳
	A判定	B判定	C判定	1級	2級	3級	4級	2級
就労移行支援事業	1人	2人	0人	2人	2人	0人	0人	2人
就労継続支援B型事業	9人	13人	3人	4人	4人	5人	0人	0人

注：「障がい者手帳保持状況」の療育手帳と身体障がい者手帳は重複あり

◇利用中止の状況

理由	在宅	就職	その他	合計
就労移行支援事業	0人	2人	0人	2人
就労継続支援B型事業	0人	3人	0人	3人

(3) 第二ひまわり（定員70人）

おおむね18歳以上の知的障がいのある方を対象に、一人ひとりの特性や個性にあった活動に取り組み、日々の生活の充実と社会参加の促進を図りました。

【重点目標】

- ① 利用者の方への対応で不適切な支援につながりかねない場면을洗い出し、全職員が意識を高め、虐待防止策に取り組みます。
- ② 個々の利用者の方のアセスメントをしっかりと行い、利用者の方の行動や気持ちの理解をより深め、職員が共通認識をもって支援できるよう、個別支援計画書や支援手順書の作成方法を見直します。

【重点目標達成状況】

- ① 職員が自信を持って支援できるよう、年に3回行っている行動確認表のチェックをもとに、日ごろの支援の中で不安になったり支援に迷ったりする場面について話し合い、支援策を検討しました。
- ② 職員が協力して利用者の方の困り感や苦手な部分の把握をし、障がい特性を考慮した個別支援計画書・支援手順書を作成し、それに基づき統一した支援を行いました。

◇利用者

契約利用者数	提供日数	総利用日数(a)	年間の 総契約日数(b)	利用率(a/b)
65人	239日	12,501日	14,235日	87.8%

注：各項目については、「けやきワークス」の注と同じ

◇利用者の年齢・性別

年齢	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	平均年齢	男	女
人数	2人	11人	20人	21人	10人	1人	38.1歳	47人	18人

◇障がい者手帳保持状況

手帳の種類	療育手帳		身体障がい者手帳					
	A判定	B判定	1級	2級	3級	4級	5級	6級
人数	64人	1人	4人	2人	0人	1人	0人	0人

◇障がい支援区分

区分	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	非該当
人数	0人	0人	0人	3人	23人	39人	0人

注：区分5の方1人、審査請求後の再判定中のため変更の可能性あり

◇利用中止の状況

理由	通所施設	グループホーム (日中支援型)	障がい者 支援施設	死亡	家庭	合計
人数	8人	0人	0人	0人	0人	8人

(4) 暖（定員36人）

おおむね18歳以上の重症心身障がいのある方を対象とした生活介護事業として、日中活動を通して、健康状態を保ち充実した毎日が過ごせるよう支援し、社会参加の促進を図りました。

【重点目標】

- ① 利用者の方一人ひとりが役割をもって過ごせる日中活動を計画し、利用者の方の今の気持ちを大切に支援を実施します。
- ② 利用者の方の加齢に伴う心身の変化を見逃さず支援方法を再検討するとともに、活動と休息を意識したメリハリのある過ごし方をご本人とご家族に提案して支援します。

【重点目標達成状況】

- ① 支援中の気づきを職員間で共有し、利用者の方一人ひとりが役割を担えるように活動を計画し、より活動を楽しめる素材や道具、支援方法を検討し日中活動に生かしました。また、選択場面では支援者が返事を急がせたり誘導したりしないよう利用者の方のペースを大切に、利用者の方の気持ちを汲み取りながら支援しました。
- ② 利用者の方の心身の変化についてご家族から聴き取ったことを職員間で共有し、数年後の姿もイメージしながら、支援方法を再検討しました。また、利用者の方が、体調に応じて休憩できるような休息姿勢の工夫、休憩できる環境（活動室内にリクライニングチェア等）を用意し、いつでも活動参加と休憩ができるようにご本人に提案しました。

◇利用者

契約利用者数	提供日数	総利用日数(a)	年間の 総契約日数(b)	利用率(a/b)
31 人	240 日	5,468 日	6,335 日	86.3%

注：各項目については、「けやきワークス」の注と同じ

◇利用者の年齢・性別

年 齢	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	平均年齢	男	女
人 数	2 人	5 人	11 人	13 人	0 人	36.6 歳	14 人	17 人

◇障がい者手帳保持状況

手帳の種類	療育手帳			身体障がい者手帳					
	A 判定	B 判定	C 判定	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級
人 数	30 人	0 人	1 人	22 人	6 人	3 人	0 人	0 人	0 人

◇医療的ケア必要者（実人数は15人）

ケアの種類	呼吸器	排痰補助装置	エアウェイ	気管切開の管理	喀痰吸引	経管栄養	導 尿	血圧管理
人 数	5 人	2 人	1 人	3 人	10 人	12 人	2 人	1 人

◇障がい支援区分

区 分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	非該当
人 数	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	31 人	0 人

◇利用中止の状況

理 由	通所施設	入所施設	死 亡	家 庭	合 計
人 数	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

（５）グループホーム喜多ハウス（定員7人）

知的障がいのある入居者の方に、安心感のある家庭的な生活の場を提供し、住み慣れた地域で自分らしく自立した生活を過ごしていただくために、就労や日中活動及び日常生活上に生じる個々の相談や必要性に応じた支援を実施しました。

【重点目標】

- ① 生活の状況や変化に応じて、関係機関との情報交換の機会を設定し、相互に協力した包括的な支援を行います。
- ② 身寄りがないため、後見人が必要と思われる利用者の方に成年後見人をつけるように支援します。

【重点目標達成状況】

- ① セールス等で不要な物を購入しがちな入居者の方の支援について、本人と支援者間で金銭管理をテーマに会議を行いました。また、加齢と体力低下により退職された方について、退職手続の支援や福祉サービスの利用の検討等、関係機関と連携して退職後の生活に必要な支援を行いました。
- ② 8月4日に権利擁護支援事業所の職員を招き、身元引受や逝去時支援等の勉強会を開催しました。また、成年後見支援センター主催の勉強会に参加し、成年後見制度への理解を深めました。1月17日には、1名のご家族からの成年後見制度利用の希望に伴い、相談支援事業所を通して後見人申請を行いました。

◇利用者・年齢・性別

年 齢	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	平均年齢	男	女	合計
人 数	1人	1人	1人	2人	0人	42.6歳	5人	0人	5人

◇障がい者手帳保持状況

手帳の種類	療育手帳		身体障がい者手帳					
	A判定	B判定	1級	2級	3級	4級	5級	6級
人 数	0人	5人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

◇障がい支援区分

区 分	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	非該当
人 数	0人	0人	1人	1人	0人	0人	3人

(6) たよりん

総合支援センターの各通所施設利用者の方120名を主な対象とした指定特定相談支援事業所として、重症心身障がいや強度行動障がいのある方への支援の専門性を活かし、その人らしい生活が実現できるよう関係機関との連携を図り、障がい福祉サービスの調整を行いました。

【重点目標】

- ① 親亡き後のために今から準備すべきことをご家族とともに考え、具体的な選択肢を検討する機会をつくります。
- ② 豊田市地域自立支援協議会をはじめ、関係する福祉サービス事業所、医療機関と連携を図り、当事者の困りごとを関係機関で共有し共に解決策を検討します。

【重点目標達成状況】

- ③ 親亡き後のことを考える機会として、成年後見支援センターから講師を招いた勉強会を3回開催し、27名の親御さんが参加しました。参加者一人ひとりの質問に対し、

講師の先生から実例や具体的な選択肢をあげて回答いただきました。

また、相談面接などで親亡き後の話題が出た6名の方について、成年後見センターと連携して支援を行いました。

- ① 豊田市地域自立支援協議会のブロック会議に参加し、当事者の困りごとを関係機関で共有できるよう事例検討を行いました。また、医療機関との迅速な情報交換や入退院支援、サービス担当者会議等を適宜実施し、関係機関との良好な連携関係を築くことができました。

利用計画案作成	本計画作成	モニタリング報告書	基本相談	サービス利用調整
158 件	157 件	318 件	483 件	178 件

(7) その他

ア 視察者の状況

通園施設の利用児の保護者、企業の障がい者雇用担当者、特別支援学校の教員、障がい福祉サービス事業所職員などの視察を受け入れました。

件 数	延べ人数	1 団体平均	月平均
16 件	81 人	5.1 人	6.8 人

イ 講師派遣

関係機関からの依頼などにより、各種研修会で講演を行いました。

派遣職種	対象者	講演内容等	件 数
支援員、就労支援員	施設職員、市職員、企業社員 学生、保護者等	障がい特性と支援、福祉の仕事、 障がい者雇用について 等	29 件
看護師、理学療法士 作業療法士	施設職員、教員、訪問看護 師、保護者等	障がい特性、食事や姿勢運動機能 の基礎知識、介助方法 等	27 件
合 計			56 件

4 事務局

(1) 総務担当

安定した法人運営を図るため、有能な人材確保とともに、階層別研修等の実施による人材育成方針の具体化など、効率的な運営と経営基盤の強化に努めました。

【重点目標】

- ① 安定的な組織運営を図り利用される方へのサービス低下を招かないよう、必要な人員の確保、適正な人員配置に努めます。また、令和4年10月から適用される限定・臨時職員の社会保険加入に向けた手続きを適切に進め、円滑な制度移行に努めます。
- ② 階層別研修について、引き続き階層別期待人材像育成の効果を検証し、また、Web 講座や Live 配信による受講を継続するとともに、受講カリキュラムを受講者に合わせ柔軟に見直します。
- ③ 事業団全体の業務継続計画（BCP）に関連し、感染症発生・まん延等に伴う施設開所・閉所について検討を行います。
- ④ 令和3年度に発生した事業団での虐待行為の発生を踏まえ、虐待防止に向けた取り組みを充実します。

【重点目標達成状況】

- ① サービス低下を招かないよう、年度を通じて幅広い媒体を活用し職員を募集、採用しました。また、正規・特業の職員採用試験を4回実施し、令和4年度当初及び年度途中で欠員になった職種の補充を行うことができました。しかし、一部職種で欠員が生じた状況となっています。
社保加入・非加入の希望調査を行い、労働条件の変更や加入・喪失の手続きを円滑に進めました。
- ② 階層別研修として、指定研修19名、名自己選択研修15名、管理者養成研修5名の職員が、対面で研修を受講することができました。管理者養成研修では受講カリキュラムを受講者が選択できるように変更しました。研修参加者のアンケートを基に、令和5年度の研修コースの見直しを行いました。
- ③ 感染症発生・まん延等に伴う出勤可能な職員の不足による対応を定めた業務継続計画（BCP）を作成し、利用者の方への周知を図り1月から運用を開始しました。
- ④ 職員からの支援に関する相談の新たな仕組みとして、所属する施設の長等に相談しにくい内容について相談できる窓口を2月に設定し運用を開始しました。また、事業団が虐待を起こしたことを改めて意識付け、虐待に繋がりそうな事例に関する研修を11・12月に実施しました。

（2）管理担当

事業団各施設に安全で質の高い給食を提供するとともに、食育支援に努めました。

こども発達センターを利用される方に快適に利用してもらえよう、施設の環境を整えました。

【重点目標】

- ① 豊田市公共建築物延命化実行計画に従って行われる屋上防水工事やひまわり棟の空調設備更新工事に際し、利用される方が安心・安全に過ごせるよう、施設管理を支援します。
- ② のぞみ診療所の電子カルテ本稼働に伴い、安定した運用ができるよう支援します。
- ③ 災害時に医療機器等の電源が、備蓄しているポータブル電源や公用車から安全に供給できるかをたんぽぽやのぞみ診療所と連携して確認します。
- ④ 偏食のある子どもの食べる意欲を引き出せる調理法を検討し、給食レシピの変更を行います。
- ⑤ 昨年度抽出した給食運営の問題点を整理し、課題解決に向けて施設間で情報の共有を行います。

【重点目標達成状況】

- ① 活動制限を極力減らしながら、安全に工事を終了させ、新しい運用に移行させました。
- ② トラブル発生時の復旧対応、消耗品管理の運用方法を定め、システムのアップデートを定期的に変更しました。
- ③ 医療機器等の電源確保の検証作業、避難訓練の中で非常電源の移動実施。非常用機器類の設置場所を決めました。
- ④ こども発達センターの給食において、カリカリの食感にしたり、ペースト状にしたりした食材を提供しました。喫食率の悪かった献立7品のレシピを変更しました。

- ⑤ 総合支援センター連絡会において解決すべき課題の共有を行い、障がい福祉課へも情報提供をしました。

5 豊田市福祉事業団研究倫理審査委員会

設置8年目を迎え、4件の申請に対して審査しました。新型コロナウイルス感染症の影響などもあり、申請数は少数にとどまりました。なお、委員会は、審査外部委員を交えた委員会を2回、迅速審査委員会（内部審査）を12回開催しました。

6 実習等の受け入れ

関係機関からの要請に応じ、大学生、専門学校生、教師、医療機関職員、障がい福祉サービス事業所職員等の実習及び、中学校や高等学校の生徒の福祉体験学習等の受け入れを行いました。

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、実習される方には2週間前からの体調と行動の記録を提出してもらうなど、必要な感染対策を講じた上で受け入れをしました。

■ 体験学習・福祉学習

学校・団体名	人 数	日 数	受入施設
小学校	0 人	0 日	
中学校（崇化館・朝日丘・石野・足助・藤岡南中学校）	13 人	19 日	けやきワークス
高等学校（豊田大谷・三好高等学校）	4 人	8 日	けやきワークス、第二ひまわり
特別支援学校（豊田・三好・岡崎・瀬戸つばき特別支援学校）	23 人	19 日	けやきワークス、第二ひまわり、暖
豊田キャリアセンター	5 人	12 日	けやきワークス、第二ひまわり
合計（前年度比）	45 人 (37.5%)	58 日 (68.2%)	

■ 実習・研修

職 種	学校・団体名	人 数	受入日数
医師・臨床心理士	愛知県精神医療センター、名古屋大学医学部附属病院、さとう糖尿病訪問診療クリニック、日進子ども発達支援センター、ほか	18 人	45 日
看護師	豊田訪問看護師育成センター 生活介護・放課後等デイサービス事業所ほか	15 人	13 日
学 生	臨床心理士	愛知教育大学、日本福祉大学	39 人 2 日
	歯科衛生士	三河歯科衛生専門学校 慈恵歯科医療ファッション専門学校	82 人 30 日
	理学療法士	東名古屋病院附属リハビリテーション学院	4 人 20 日
	作業療法士	名古屋大学、中部大学 東名古屋病院附属リハビリテーション学院	56 人 29 日
	言語聴覚士	日本福祉大学中央福祉専門学校	1 人 30 日

職 種		学校・団体名	人 数	受入日数
学 生	社会福祉士	愛知県立大学、日本福祉大学	12 人	192 日
	教員・教諭	愛知教育大学、星城大学	20 人	8 日
	保育士	名古屋大学、中部福祉保育医療専門学校	2 人	23 日
職員研修		みよし市親子通園ルーム、挙母こども園、童子山こども園、野見こども園、ほしぞらとよた、ジャックと豆の木、カルミアの郷、りすまいる、ねこの手、加配保育士保育実習ほか	119 人	20 日
合 計 (前年度比)			368 人 (162.8%)	412 日 (112.8%)

(内訳) 発達センター

職 種		学校・団体名	人 数	受入日数
医師・臨床心理士		愛知県精神医療センター、名古屋大学医学部附属病院、さとう糖尿病訪問診療クリニック、日進子ども発達支援センター、ほか	18 人	45 日
看護師		豊田訪問看護師育成センター、放課後等デイサービス	4 人	3 日
学 生	臨床心理士	愛知教育大学、日本福祉大学	39 人	2 日
	歯科衛生士	慈恵歯科医療ファッション専門学校 三河歯科衛生専門学校	82 人	30 日
	理学療法士	東名古屋病院附属リハビリテーション学院	4 人	20 日
	作業療法士	名古屋大学、中部大学 東名古屋病院附属リハビリテーション学院	50 人	10 日
	言語聴覚士	日本福祉大学中央福祉専門学校	1 人	30 日
	教員・教諭	愛知教育大学（特別支援教育）	14 人	3 日
	保育士	名古屋大学、中部福祉保育医療専門学校	2 人	23 日
保育士ほか		みよし市親子通園ルーム、挙母こども園、童子山こども園、野見こども園、ほしぞらとよた、ジャックと豆の木、加配保育士保育実習ほか	114 人	13 日
合 計			328 人	179 日

(内訳) 総合支援センター

職 種		学校・団体名	人数	受入日数
看護師		豊田訪問看護師育成センター りすまいる、カルミアの郷	11 人	10 日
学 生	作業療法士	中部大学、名古屋大学	6 人	19 日
	社会福祉士	愛知県立大学、日本福祉大学、中京大学 東海医療科学専門学校	12 人	192 日
	教員・教諭	星城大学	6 人	5 日

職 種	学校・団体名	人数	受入日数
支援員ほか	カルミアの郷、りすまいる、ねこの手	5 人	7 日
合 計		40 人	233 日

7 ボランティア活動

今年度も多数のボランティアのご協力をいただきました。

活動施設	活動内容	活動回数	延べ活動人数	活動団体・個人
こどもひろば (再掲)	園児等の兄弟姉妹の託児	213 回	829 人	学生、個人他
あおぞら	グループ懇談会時のこどもの託児	50 回	59 人	ボランティアグループ とまと
おひさま	グループ懇談会時のこどもの託児	28 回	54 人	ボランティアグループ とまと
たんぽぽ	利用児の整髪等	9 回	17 人	美容ボランティア
ひまわり	保護者勉強会、保護者施設見学の兄弟姉妹の託児	3 回	10 人	卒園児保護者等
第二ひまわり	除草作業	1 回	6 人	崇化館地区民生委員
けやきワークス	花の苗植え	1 回	6 人	梅坪ブロックPTA
合 計 (前年度比)		305 回 (104.1%)	981 人 (83.8%)	